

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察と改善方策		評価資料	評価	アンケート結果(%)						
		評価指標	目標値		考 察	改 善 策			4	3	2	1	肯定率	全体肯定率	
学び続けるたくましさ	主体的な学び	個別最適な学びと協働的な学びのベストミックスにより、学習意欲を高め、主体的に学習を進めることができる。	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	A	・児童、保護者、教職員が肯定的な評価となっているが、地域有識者がやや低い評価となっている。 ・一人一台端末を利用した学習では、効果的なアプリケーションの活用について、各教員が取り組んだ。	①教職員のICT活用のスキルの向上を目指した研修等を継続する。また、各学級での取組について情報交換を行い、有効な活用を学校全体で進める。	児童アンケート	A	77	23	0	0	100	96	
	対話的な学び	学習形態の工夫により、自分の思いや考えを主体的に、より良く伝えることができる。		A	・児童、教職員がやや低い評価となっている。 ・タブレットを活用した発表技術は向上している。更に、ポインターの利用やシンキングツールの活用などを実践していきたい。 ・話し方や聞き方の具体的な姿を統一したことで、意識して取り組もうという態度が児童に見られ始めた声掛けや指導を継続し、更に意欲を高めていきたい。	①音読集会や俳句集会などの発表の場を通して、自分の思いや考えを自信を持って伝えられるよう、発表の機会の確保とともに内容の充実に努めていく。 ②発表前に考えを書かせたり、辞書やタブレットを活用したりすることで、自信を持って発表できるよう支援していく。	児童アンケート	A	46	46	0	8	92		
	深い学び	体験活動や協働的な学びにより、学習したことの理解を深め、様々な場面で活用することができる。		A	・保護者、地域有識者、教職員は肯定的な評価が多い一方、児童が低い評価となっている。 ・児童は様々な体験活動や協働的な学びに主体的に取り組んでいるが、学習内容の理解について不安を持っている児童がいるようである。 ・学びを生かすための授業構成、生活の中で学びを活用させる声掛けなど、教師が児童の主体性を育てることが必要である。	①児童が学習した成果を実感できるよう、個々の児童の資質・能力の向上に努めていく。また、一人一台端末の活用を工夫することで、児童が学んだことを生かしながら学習を更に深めることができるよう授業改善を進めていく。 ②学習の振り返りをもとに、次の学習への意欲や課題を持たせることができる指導・支援に努める。	児童アンケート	B	62	23	15	0	85		
	学習習慣・読書習慣の確立	家庭でも学習や読書を進んで行い、学習したことをきちんと身に付けている。		A	・児童、保護者、教職員ともに肯定的な評価である。 ・学びに関するアンケート結果より「読書を進んでしている」の項目で、「当てはまる」69%、「どちらかという」と当てはまる」31%で、昨年度3月末よりポイントが向上している。 ・「自分の課題を見つけ、主体的に学ぶ」児童を育てるため、レベルアップノートの充実や効果的な家庭学習について工夫していきたい。	①家庭学習の意欲化を図ることができるよう、レベルアップノートや一人一台端末の活用を工夫していく。 ②図書委員会による読み聞かせや児童による「おすすめの本」の紹介を継続し、自ら本に親しむ態度を育成する。	児童アンケート	A	85	15	0	0	100		
	学校運営協議会委員の所見				・アンケート結果を昨年度と比較すると、多くの項目で向上している。学校の継続的な地道な取組が行われているからだと感じる。 ・好藤小学校とのオンライン交流授業は、小規模校の課題解決につながる良い取組である。互いに刺激を受け、学習の意欲付けにもなっているのではないだろうか。 ・小規模校、少人数の良さを生かした学習を通して、学んだことを活用する力が育っていると思う。	学校の対応									・他校との合同授業や交流を進め、多様な考えに触れ、自身の考えを深めることができるよう授業改善に取り組む。 ・ICTのより効果的な活用を進めるとともに、互いの考えを比較、関係付けながら話し合ったり、自分の考えを異なる視点から捉え直したりする活動を通して、深い学びの実践に努める。